

大学では年末から2月頃にかけて、学生の卒業や修了に向けて学位論文の審査を迎え慌ただしくなります。本号が出版される頃には終盤に差し掛かっているでしょうが、指導教員と一緒に論文をどのようにまとめていくか悩まれているかもしれません。特に卒業論文や修士論文は、短い研究期間の中で成果を出す必要があります。プレッシャーを感じている学生も多いかと思いますが、研究が順調に進み、すでに学会発表や学術論文を発表しているような方は余裕があるかもしれませんが、残念ながら計画どおりに進捗しない場合も当然あります。追い込まれたときに新しい発想が生まれるように、思惑どおりに進まないことが研究の醍醐味の1つかもしれませんが、自分が学生の頃を思い返してみても、そのような余裕はなかったように思います。とはいえ現在も雑用に追われ、ゆっくり研究に取り組む時間がなく寂しい限りですが……。短い期間でより良い成果が出せるかどうかは、日頃の研究への取り組みはもちろんですが、研究室の経済事情や研究テーマ

の設定、タイミングや運にも左右されることもあります。研究指導する立場からすると本人の責任に帰さない理由も多いので申し訳なく思うところもありますが、このような経験も重要であり、今後の人生の糧になってくれると信じています。

さて、学位論文の審査が終わると大学では入学試験が本番の時期となります。学位論文の審査と同様に毎年恒例の風物詩のようなものですが、国公立大学では2月末から3月にかけて各大学で個別試験が実施されます。主役はあくまでも受験生ですが、大学でも出題ミスなどトラブルがないよう入念な準備をし、教職員も緊張する時期となります。各々の努力と準備が報われることを願っていますが、特に体調管理にはお気を付け下さい。本稿は、子供から風邪をもらい自宅で執筆していますが、年を取るごとに、心身の健康のありがたさが身に沁みます。立春を迎えますが、まだまだ寒い時期が続きますので、皆様ご自愛下さい。

(中村将志)

## カラー写真ご提供のお願い

化工誌編集委員会

本誌の目次や編集者の独り言下に掲載するカラー写真を広く会員の皆様からのご投稿をお願いしています。ご投稿いただいた写真は編集委員会で適宜選択して使わせていただければと考えています。ご投稿の際にはごく簡単な説明をつけていただき、電子ファイルの場合には高解像度のもの(300DPI以上)をお送り下さい。

以下のような写真のご提供をお待ちしています。

1. 季節感のあふれた風景・草花・野鳥・動物の写真など
2. 化学に関する写真—カラフルな物質、化学模型、電顕写真、実験機器、化学プラントなど

送付・問合先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5  
日本化学会 学術情報部 「化学と工業」誌担当  
FAX(03)3292-6319 E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp



冬ボタン 務台 潔